

工業 須賀

ウイルス不活化に効果

次亜塩素酸水 生成装置の販売強化

須賀工業は、ビルトインタイプの次亜塩素酸水生成装置「KOGANEI超！おてきれい」の販売を強化する。

装置が生成する電解微酸性次亜塩素酸水が新型コロナウイルススに対しても、高い減少効果を発揮することが期待され、高齢者施設やホテル・厨房、教育・保育施設などに広く提案していく。「次亜塩素酸水を希釈する必要もなく、在庫管理も必要ないことから、スタッフの作業軽減にもつながる」（同社）という。

価格は毎分1リットルの流量能力がある装置で工事費込み45万円（税別）。7年リースの場合で月額5000円から。

装置は、空気圧制御機器メーカーのコガネイ（東京都小金井市、岡村吉光社長）が本体を製造、須賀工業がセンサー部分の開発と販売を手掛けている。

食塩水などの電解質を電気分解して生成する次亜塩素酸水のうち、やや酸性の水で、人体に優しく、病原菌などに高い不活化効果を発揮する。

今回、新型コロナウイルスの代替として、豚流行性下痢ウイルス（PEDV）に対して不活化試験をした結果、有効塩素濃度15ppmの次亜塩素酸水を30秒間作用させると、ウイルスは99・9%以上減ることが分かったという。

試験は、公衆衛生地域振興協会（東京都中央区）と協力し、食環境衛生研究所（前橋市、久保一弘社長）に委嘱した。ウイルス力価検出法として、国立感染症研究所や製品

評価技術基盤機構、帯広畜産大学、鳥取大学が採用している「TCID50法」で検証した。



設置例

塩素濃度は1リットルあたり10ミリタ以上ある。

使用ごとに自動で電気分解処理して生成するため、希釈や濃度管理の必要がなく、有効塩素濃度10～15ppmの次亜塩素酸水を提供する。メンテナンスは、原液のボトルを交換するだけで済む。

装置は、5リットルの原液ボトルから約1000リットルの電解微酸性水を生成、1時間に60リットルを供給量があり、遊離残留する。

これまで、サルモネラ菌やO（オー）157などの菌、インフルエンザウイルスやノロウイルスなどを不活化することが確認されており、150台を超える納入実績がある。

